

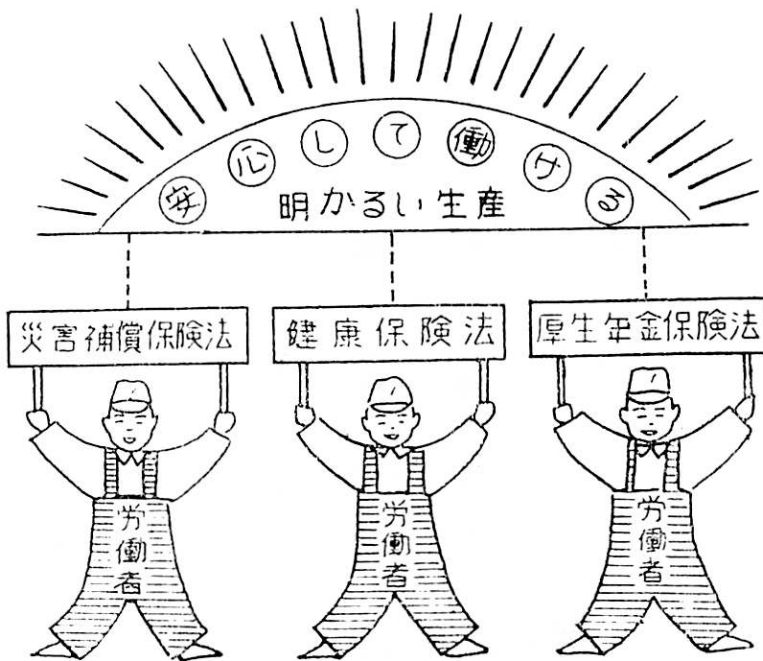
家庭職業

職業教育研究会編

昭和27年度

検定教科書

特集号



職業教育研究会発行

監修 参議院議員 河崎なつ 東京農業大学 平林 忠
東京工業大学講師 関 英男 東 助 教 授 宮原 誠一
工 学 博 士 東京大学助教授

職業教育研究会編

昭和27年度 職業・家庭科教科書

家庭向

(中職七二〇) 一年用・楽しいしごと
(中職八二三) 二年用・新しいくらし
(中職九一三) 三年用・生活の設計

都市向

(中職七二二) 一年用・しごとの喜び
(中職八一四) 二年用・働くちから
(中職九二四) 三年用・将来にそなえて

農村向

(中職七二二) 一年用・村のしごと
(中職八一五) 二年用・大地と共に
(中職九一五) 三年用・明るい農村

— 展示會に出品乞御閱覽 —

東京都中央区木挽町5ノ5 (電話京橋6番)

發行所

33
光

光 書 房



正しい教科書観

相当年配の教師でない、あのうす黒い表紙で、出来るだけ古めかしい顔をした、国定教科書を知っている人は少いであろう。

それは宛も、当時のわが国の教育・学校・教師そのものを象ちようとしているかのような存在だった。その後少し文部省も開けて、色ずり国語読本などを出した時は、一大センセーションを巻き起したものである。それは昭和九年頃であつたから、今から十六七年ほど前である。

戦争中は勿論それであつたが、内容がいけないというので、益々暗いものになり、おまけに品不足となつて、汚れた古教科書が珍重がられ、修身書などは、ていねいに捧げ持つように教えられたものであつた。

また教育の上でも、一字一句教科書からそれないように、どうしたら教科書を丸暗記し

官製の軍国主義をそこからくみとることが出来たかが重要な問題であつた。

終戦後はがらりと変つた。まだ文部省教科書崇拜熱がぬけ切つていないとはいえないが、ともかく検定教科書制度ができて、今後はそれが中心にならうとしている。

最初に文部省は、アメリカあたりの教科書をまねして、単元を設定して、それを発展させ、問題を生徒に投げかけるような教科書を作つた。そして結局、教科書にたより教科書を中心にして学習を進めるように仕組んだが、果してその中どれほどが完全に学習されたであろうか。やるものはやるが、やらないものはやらない、それが自由だ——そんな解釈で片づけられたようなことはなかつたであらうか。

これは、戦前の教科書への反動として、おそらく教科書を軽く考え、粗末にする考え方と共に、教科書をつくる側に、ただ砂糖をまぜたり、水でうすめたり程度の程度で、根本的に頭の切りかえができていなかったこと、教師の側でも過去の教科書観から脱皮していなかったことによるのではなからうか。

そこで、われわれはこういいたい。「教科書はどこまでも学習のよき伴侶であり、豊富な資料でありたい」と。

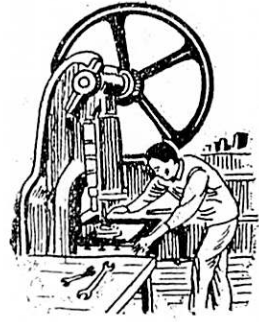
殊に職業・家庭科の場合のように、各学校で地域に即した単元を設定し、仕事を実習することが主要となる学習では、教科書に対する戦前から戦後にかけての見方から、さらにもう一歩ぬけ出さなくてはならない。

教科書の一字一句を見のがさないやり方や問題の投げ放しや、または詭物式では、真によい教科書とはいえない。教科書には、出来るだけ豊富な、そして正確な資料が盛りられ、教師は、それを生かしていく力がなくてはならない。ここに始めて、正しい教科書観が確立する。

(池田種生)

目次

- ▽ (扉) 正しい教科書観……………池田種生…一
- ▽ 新しい職業家庭科は
いかにあるべきか……………清原道壽…二
- ▽ 昭和二十七年教科書総目次……………七
- ▽ アンケート……………諸家…一三
- ▽ 推薦のことは……………河崎なつ…一五
- ▽ 資料……………一六
- ▽ 質問に答える……………
- ▽ 職業教育研究会の活動……………



新しい職業・家庭科はいかにあるべきか

(附・教科書編集方針)

職業教育研究会・教科書研究部

清原道壽

名も「職業・家庭科」と改められ、従来の商・工・農・家庭とわかれていたものを一本にしたこの教科の取扱い方については、すでに昭和二十四年十二月九日附の文部省通牒で試案として、学習要領の大綱が示されたことは御承知の通りである。

それによると、職業・家庭科の教育内容は、(一)実生活に役立つ仕事(トライアウト)と(二)職業生活・家庭生活についての社会的経済的な知識理解(インフォメーション)とに大別することができ、その時間数の配当は、前者に四分の三、後者に四分の一をとするようになっている。

新しい職業・家庭科は、この線にそつて進められるべきであり、それに使用する教科書は、当然それを正しく進めるものでなくてはならないのである。

二

さて、いうところの「仕事」であるが、これについては、文部省の大綱でも繰りかえし「実生活に役立つ仕事」を強調しているよう

に、従来の中学校の職業教育は、現場の人から「役に立たない」という評をしばく受けて來ている。

それは、学校の技術教育が現場の生産技術と結びついていなかつた為であり、形だけは「技術教育」であつても、技術が社会の生産労働の眞の基礎になるよう、指導されていなかつた結果である。

たとえば、われわれは小学校から入学してきた生徒たちの中に木工用具の使い方の全くでたらめなものが多いのに驚く経験を持つ。しかも、彼等は小学校の図工科で「木工工作」をしてきただけに、用具の正しい使い方を指導しても、悪いくせがなかなか抜け切らないのである。

中学校の工作実習で、小学校で使ひなれた筈の木工用具の方が、はじめて使う金工具より破損率の高い原因はどこにあるのであろうか。それは正しい木工具の使い方——それは生産技術の基礎でもある——が、小学校の図工科で十分指導されていないことによる。

これと同じような欠陥が、従来の中学校の技術の指導にもなかつたとは断言できないのである。

たとえば、製図の指導で、鉛筆のけずり方をはじめ、線の引き方定規の使い方、寸法線の引き方など、製図法に定つている約束を無

視し、よい加減に腰かけのスケッチをして、カラスグチで墨入れまでしてあるのを、よく見かけるのである。

このような指導では、生徒はほとんど製図の基礎的技術を得ないままに製図の学習を終ることになる。かくて生徒は、製図とは似ても似つかぬことを学習したことになり職場の人から言わせると「製図をやつたという頭があり、悪いくせが身についているだけに、何も習わなかつたものより指導しにくい。」との評を受ける結果になる。

若しこうした結果になるとすれば、全く実生活に役立たないのみか、却つて彼等の將來を害することになるので、新しい職業・家庭科の目標からそれてしまうのである。

このように、正確な生産と結びついた技術を学習するようにしないでならぬと共に、中学校における職業家庭科の仕事は、基礎的な技術として、広い職業群に通用する技術が取上げられるべきである。

生徒は將來どの方面の職業につくかわからないのであるから、基礎的技術を学習することによつて、自己の適性を自覚することができると共に、それが將來の職業の準備ともなるのである。

三

つぎに、職業生活・家庭生活についてのインフォオームーションであるが、文部省試案の「教育計画の基準」（参考資料参照）によると、仕事と関連して、それに関係ある職業生活・家庭生活の社会的経済的な知識理解を与えるように、学習単元を作成することが望ましいとされている。しかしそれが不可能な場合は、知識理解だけの

学習単元を作つて、学習させてもよいことは、今度発表される單元表の例を見ればわかる。

元來カリキュラム構成の理論からいえば、インフォオームーションは、社会科にゆずるべきであらう。しかし現在の社会科の教育内容では、生徒は、職業・家庭科で要求するような社会的経済的な知識理解を、十分に得ることができないのである。従つて、文部省試案では四分の一の時間を、これにあてるようにしているのである。

この学習によつて、わが国の各種の産業と職業の現況と動向を知り、將來の職業生活に必要な事柄を理観することによつて、自己の進路の選択と決定ができるし、また職業生活への準備ともなるのである。

また家庭生活についてのインフォオームーションは、民主的な家庭生活のあり方やその改善の方向を理解し、將來の家庭生活にそなえることが目標となる。

更に職業と家庭との関連、ことに家庭経済を支配する収入の面から、この兩者の關係は密接であり、従來家庭を中心に生活していた女子の職業への進出が、大きく社会的に認められてきた今日、単なる家庭科だけの教育では、實際生活に間に合わない。ここに職業・家庭科の新しい出発が見出されるのである。

四

つぎに、これらの目標によつて、職業・家庭科の教育を具体的に進める場合、それは「職業・家庭科の学習内容は、地域社会の必要と学校や生徒の実情によつて特色」を持つべき性格を備えている。従つて各学校によつて、それぞれ時宜に適した單元構成がなされ、

それによつて進められるべきである。

けれども、狭い見解や、単にやり易いからというような便宜主義に墮してはならない。彼等の將來を考え、職業の多種多様性からいつて、出来るかぎり広い職業的技術と理解がおり込まれていかななくてはならないのである。

以上のような観点からするならば、職業・家庭科の教科書は、各地域毎に、更に細かく分かつて作られるのが至当である。しかしそうしたことは、実際問題として不可能である。またそうすると、部分的になつて全体を見逃しやういふ欠陥も生ずる。それで、他の教科と同様、検定制度によつて、教科書が作られるようになったのである。

故に、職業・家庭科の教科書は、他の教科のように簡単にはいかない。使用する側でも、読本のように、第一課、第二課と読み進んでいくことはできないし、作る側としても、その性格を十分考慮してかからなくてはならないのである。

文部省では、そうした立場から、つぎの三種の職業・家庭科教科書の検定出願を受けつけることを、昨年九月末発表した。即ち

1. 農村生活を中心としたもの（各学年用）
2. 都市生活を中心としたもの（各学年用）
3. 家庭生活を中心としたもの（各学年用）

がそれである。つまり九冊の職業・家庭科の教科書が、昭和二十七年から発行されることになつたのである。

しかし、これは大体の区分であつて、それぞれの実状に応じて、各学校で採用すべきものを決定されてよいのである。

どこまでも、これらの教科書は、一つの標準を示しているもので必ずしも、その学校にうつてついで、季節的にも都合がよく、この教科書の順序に学習していつてよいというものではない。そんなものは、作り得ないのである。これらの教科書は、すべて学校で学習単元を作る場合のソース・ユニットとなるものである。このことをまず頭において、教科書に對さなくてはならない。

五

そこで、われわれは、これら三種の教科書を編集するに當つて、つぎのような基本方針によつたのである。

- (1) 文部省の仕事の分類表から、生産労働と直接間接にむすびついた「基礎的技術」を選び出して、その仕事を実際に学習できるように、仕事の過程を、多数の図解によつて詳細に示した。（多くの場合、単なる説明に終り「基礎的技術が等閑され勝ちになる。〇〇君の研究といつた、物語り形式の叙述をさせた。）
- (2) それらの仕事については、できるだけ多くの項目を取上げ、各校で学習単元作成の場合の資となるようにつとめた。
- (3) インフォメーションの中で、わが国の産業と職業については、わが国の産業構成上人口数の多いもの、また、わが国の産業構成から今後増加するであろう各職業について、相当くわしくふれた。
- (4) 以上の兩者を結びつけて取上げるようにし、また、出來得る限り生徒の生活の中から主題を求め、それに関連してトリアウトとインフォメーションを進めるようにした。

つぎに、目次に従つて、農村・都市・家庭の各編集の概要を述べ

ておこう。

A 農村生活を中心としたもの

この場合、農業・漁業などが中心になるのは当然であるが、生徒の将来の職業は、そのみに限られてはいない。また純農村のみとはいえないのである。

それで農業を中心としながら、それに関連して出来る限り広く職業の分野を取入れている。

第一学年用は、殆んど都市向と共通で家庭のしごとも取入れた。ただ最後の「農園のしごと」で、栽培と飼育に相当のページをさいた。

第二学年用では、本格的な農業実習に入ると共に、水産業のしごとと理解をとり入れ、「職業しらべ(一)」によつて、他の職業の調査研究を試みている。

第三学年用では、農業経営から入つて、商業に共通する簿記や珠算、それに農畜水産加工の実習を取入れ、関連する産業・職業の理解をつけた。つぎに新しい農漁村として、協同組合と農業用機械の操作、電気関係の仕事などを取入れている。

また、職業しらべ(二)において、残された他の産業・職業の理解に導こうとしている。そして最後に、私たちの将来として、就職と進学の問題を取上げている。

B 都市生活を中心とするもの。

この場合、工業・商業が中心となるのは、これまた当然であるが文部省試案の第一類に属する栽培・飼育をとり入れ、家庭の仕事をも加えている。

第一学年用では、殆んど農村向と共通で、最後に「学校図書館」

の単元をとり入れた。何れも、農村向と共に、生徒の日常生活の中から、技術的にやさしく、基礎的技術のふくまれた仕事を、可能な限り沢山とり入れている。

第二学年用では、一年より程度を高めて、まず職業の調査からはじめ、家具の製作と修理に関連する基礎的技術を、相当広範囲に取上げている。また、これに関連するインフォメーションも取入れた。つぎに「子供銀行」において商業的方面を「働く人の健康」において、職業的な知識理解を与えようとした。

第三学年用では、第二類、第三類の仕事をも更に高めるようにし、学校購売部の仕事に多くのページをさいた。そして私たちの将来によつて、就職と進学についての予備的知識を与えようとしている。

C 家庭生活を中心としたもの。

編集に當つて最も苦心したのは、これであつた。従來のままの家庭科ではなく、新しい時代に即した職業・家庭科の一分野としての家庭教科書は、自ら性格が異らなくてはならない。多く女子用として用いられるのであろうが、職業科的技術や知識が与えられなくて就職して困つた例も少くない。

勿論家庭の仕事、衣・食・住が中心となるのであるが、それと関連する産業、職業の知識理解を、相当豊富に取上げることにした。

第一学年用では、まず家庭の生活時間の調査、家庭人の職業しらべから入り、日常生活の中から技術を求めるようにした。そして簡単な衣・食生活、栽培・飼育、幼児の世話の中にトライアウトしながら、それに関連するインフォメーションを取入れた。

第二学年用では、更に複雑な衣・食・住生活、家庭の看護に関する技術と理解、家庭生活と職業において、第三類の商業的技術をと

り入れると共に、他の産業の理解を深めるようにした。

第三学年用では、家庭生活の改善を目標とする仕事、それに將來の就職と進学、よき家庭の建設によつて結ぶことにしている。

六

以上は、そのアウトラインであつて、詳細は展示会において、実物によつて閲覧されたいと思う。

われわれの教科書編集の方針が、前記のように、ソース・ユニット

十一頁より

ニワトリの解体

大量炊事

住生活の改善

わが家の設計

設計図のかき方

電鈴の取りつけ・電気スタンドの製作

電気産業に働く人たち

職業と衣服

スモック・ズボン・染色

染料を作る人たち

女物アワセ長着

学校バザー

正しい保育

乳幼児の食物・乳児の世話・乳児の衣服

保育と社会施設

私たちの將來

進学と就職

労働者のための法規

よき家庭の建設

(アンケートつづき)

千葉県安房郡丸村丸中学

御子柴八十二

一、トライアウトとして、一つ一つ孤立して

扱う事は望ましい姿でないと思ひ、幾つか

の実習が結びつく如く、栽培飼育を中心と

した作業單元である(純農村であるため)

單元は学年別男女別とした。

選択時間は、もつぱらエクスポラトリ、

コースを考へ職業陶冶をしている。

二、財政面より設備器具の不備による困難。

トとして、各学校の学習の単元の構成に役立つことを考へ、広範囲に資料を豊富にするため他教科のように、読本式、物語り式ではない。また表現においても、漢字を少くし、文章を簡潔に、サシエを多く図解を重んじている点、全く以上述べ來つた該科の性格と、われわれのそれに正しく添うための編集方針に基くものである。これらのことを理解されて、できるだけ多くの採用が、この最も新しいわれわれの教科書『光書房版』に集中されるよう切望してやまない次第である。

教師自身の技術的な面の不足。

実習費負担の困難。

高校側よりの知識偏重的な要求に対するト

ライの行方の不安。

本年度職業教科書

教師用書(前期用)

——採用校へ贈呈——

昭和二十六年年度の光書房版職業教科書に対する教師用書(前期用)が近くできます。御採用各校へもれなく送呈する予定です。

光 書 房

職業教育研究会編（光書房發行）

昭和二十七年
職業・家庭教科書總目次

農村用目次

一年（村のしごと）

校庭のしごと

校庭に花を作ろう

計画と準備をしよう・用具のいろいろ

草花栽培の実際・一、二年草・多年草・球

根類・ハチ植えの栽培

肥料土を作ろう・栽培記録をつけよう

キンギョ池の作り方（コンクリート工作）

キンギョとコイの飼育

花壇と木・竹工作

木札の作り方（木工作Ⅰ）・ハチ台の作り方

（木工作Ⅱ）

手さげ花竹の作り方（竹工作Ⅰ）・竹がぎと

ナワムスビ（竹工作Ⅱ）

製材業に働く人たち

ベニア合板を作る人たち

木製品を作る人たち

ゲタを作る人たち

木製漆器を作る人たち

竹製品工業に働く人たち

家庭のしごと

家庭の職業と生活時間

グラフの種類と作り方

家庭生活の反省

調理のしごと・おやつ作り方

栄養士

衣類の整理と保存・衣類のせんたく・衣類

の手入れ

ミシンの操作

クリーニング業・洋服業

すまいの清掃と整理

とりつけダナのつけ方

小づかい帳と家計簿

幼児の世話

保母・保健婦・看護婦

電気用具の取り扱いと注意

農園のしごと

農作のはじめに

野菜の栽培・トマトの栽培を中心として・

キヤベツの栽培を中心として・ダイコンの

栽培を中心として

ムギの栽培

家畜のしごと・ニワトリの飼育・ウサギの

飼育・ヤギヒツジの飼育

農業に働く人たち

二年（大地と共に）

水田と裏作

ムギの手入れと收穫・ナタネの栽培・緑肥

の栽培

水田イナ作の実習

脱穀機の操作・農機具製造業

ワラ工作（手ナワ・機械ナワ・米俵・サン俵）

ツミゴエとウマヤゴエ

化学肥料を作る人たち

適地適作

大豆の栽培・ナットウの作り方

サツマイモの栽培・ホシイモの作り方

ジャガイモの栽培

温床育苗

カキのツギ木の栽培・ホシガキの作り方

茶の木の栽培・工藝作物を作る人たち

桑の栽培・蚕を飼うしごと（養蚕）

スギ苗を育てよう・林業に働く人たち

家畜の飼育

ニワトリの孵化と育雛・ブタの飼育・牛の

飼育

草刈りカゴの作り方

畜産業に働く人たち

水産のしごと

漁ろう業（網漁業・ツリ漁業・漁具の手入

れと保存）

アサクサノリの養殖・干しノリの加工

海洋の観測

職業しらべ（Ⅰ）

調査前の準備・郵便局に働く人たち

調査後の整理

調査結果の謄写印刷

駅で働く人たち

その他の運輸業で働く人たち

製鉄・製鋼業で働く人たち

学級新聞を発行しよう

三年（明るい農村）

農業の経営管理

農家の経営・農業簿記のつけ方・珠算の練

習

金融業に働く人たち

農産物の加工（タクアン・水アメ・ジャム）

畜産物の加工（バター・毛糸つむぎ・毛皮

なめし）

水産物の加工（スルメと塩カラ・煮ボシ・

カツオブシ）

食品工業に働く人たち

炭焼き作業

シイタケの栽培

油しぼり（なたね油・漁油）

新しい農漁村

これまでの日本農業

新しい農村の出發

新しい漁村の出發

農業協同組合

ポスターの書き方・包装と荷造り・噴霧器

の操作

発動機と電動機の操作

石油発動機の使い方・動力耕ウン機の使

方・電動機の使い方

農業の機械化

電熱温床の作り方

電気産業に働く人たち

コンクリート流し場の製作

木材業に働く人たち

建築業に働く人たち

職業しらべ（Ⅱ）

自転車の分解と修理

自転車を作る人たち

機械製図

船を作る人たち

炭坑で働く人たち

公務員と教員

私たちの将来

公共職業安定所の見学

労働保護と労働運動

働く人の健康

職業と社会

都市用目次

一年（しごとの喜び）

学校のしごと

家庭に花を作ろう

計画と準備をしよう・用具のいろいろ

草花栽培の実際・一年草・多年草・球根類

の栽培・ハチ植えの栽培

肥料土をつくろう

栽培記録をつけよう

キンギョ池を作ろう（コンクリート工作）

キンギョとコイの飼育

花壇と木・竹工作

木札の作り方（木工Ⅰ）・ハチ台の作り方

（木工Ⅰ）・手さげ花イケの作り方（竹工Ⅱ）

・竹ガキとナワムスビ（竹工Ⅱ）

家庭のしごと

家庭の職業と生活時間

グラフの種類と作り方

家庭生活の反省

調理のしごと・おやつ作り方

栄養士

衣類の整理と保存・衣類のせんたく・衣類の手入れ

ミシンの操作

クリーニング業・洋服業

すまいの清掃と整理

とりつけダナのつけ方・小づかい帳と家計簿

簿

幼児の世話

保母・保健婦・看護婦・家庭菜園

栽培の準備・トマトの作り方・レタス（玉

チンヤ）の作り方・ハツカ・ダイコンの作り方

り方

家畜を飼おう

ニワトリの飼いかた

ウサギの飼いかた

農業に働く人たち

水産業の人たち

電気用具の取り扱いと修理

電気スタンドの製作

学校図書館のしごと

学校図書館

図書の本と修理・各種の帳簿・カード類

の謄写印刷

図書館に働く人たち

印刷・製本業の人たち

出版業に働く人たち

二年（働くちから）

職業しらべ

調査前の準備

郵便局で働く人たち

調査後の整理

駅で働く人たち

その他の運輸業に働く人たち

センイ工場に働く人たち

公務員と教員

学級新聞を発行しよう

家具の製作と修理

電気アイロンと電気コンロの分解修理

電気コンロの作り方

電気産業に働く人たち

自転車の分解と修理

自転車を作る人たち

パネバカリの分解と修理

トケイ製造業に働く人たち

くだものカゴの作り方

オモチヤの製作

製材業に働く人たち

ペニア合板を作る人たち

木製品・ゲタ・木製漆器を作る人たち

竹製品工業に働く人たち

林業に働く人たち

工具の手入れ・ノコギリ・カンナ・ノミ・

小刀・ネジマワシ

ハンダづけとビヨウ打ちによる修理

コンクリート流し場の製作

セメントを作る人たち

楽焼きのしかた

陶磁器を作る人たち

住宅の設計

建築工業に働く人たち

測量のしかた・クサリ測量・平板測量

土木工業に働く人たち

こども銀行のしごと

開店の準備と計画・ポスターの書き方・こ

ども銀行の経営・珠算の練習

働く人の健康

職業と体質

働きよい場所

働く時間

余暇の利用

職業病の結核

職場災害

働く人の榮養

働く人の為の施設

健康を保つ組織

三年（将来にそなえて）

職業しらべ

機械製図

機械製造業に働く人たち

造船業に働く人たち

自動車製造業に働く人たち

製鉄・製鋼業に働く人たち

化学工業に働く人たち

炭坑業に働く人たち

学校購売部のしごと

学校購売部の経営

簿記・珠算

商業に働く人たち

包装と荷造り・タイプライターの操作・計

算器の取り扱い

電気と生活

プザーの組み立て・ラジオの組み立て

電気器具製造業に働く人たち

揚水電動機の操作

私たちの将来

進学と就職

適材適所

家庭の事情

社会の事情

上級学校を選ぶには

就職先を選ぶには

履歴書のかき方

公共職業安定所の見学

労働保護と労働運動

職業と社会

家庭用目次

一年（楽しいしごと）

わたしたちの将来

職業と生活時間

グラフの製作

家庭生活をかえりみて

小づかい帳と家計簿・応接と訪問のしかた・

電話のかけ方

夏の衣服

衣服の手入れと保存

ミシンのかけ方

エプロンとカツボウ着の作り方

手藝のしごと

ワンピースド・レスの作り方

ひとえものとき方

せんたくとアイロンかけ

クリーニング業・洋服業

栽培と飼育

花をつくろう

家庭菜園のしごと

ニワトリの飼い方

ウサギの飼い方

家庭で作る農産加工（タクアン・ナットウ・

ホシイモ・ホシガキ・水アメ・ジャム）

農業に働く人たち

日常の食物

調理にかかる前に

調理の実際・おやつ作り方・台所の改善

ハウチヨウさしの工作

食事作法と給仕

栄養士・水産業の人たち

幼児の世話

もりのしかた・よい習慣のつけ方・あそび

せ方・しかり方

オモチヤの作り方

毛糸あみもの

農・漁村で働く婦人たち

二年（新しいくらし）

季節と衣服

季節と衣服計画

ブラウスとスカート

本裁ち女物ひとえ長着

セーター

洗い張り・シンシ張り・部分洗い

電気アイロンの分解修理

セイイ工場に働く人々

健康と食物

栄養と献立て・季節と献立て

カマド・コンロ・燃料

畜産物と水産物の加工（バター・塩カラ・

煮ほし）

食品工業に働く人々・（カン詰め・ビン詰

め製造業・ペン製造業）

快い住居

住居の間取り・住居の使い方・住居の衛生

チリトリの製作

電気用具の取り扱いと修理

家庭と休養

家庭の看護

家庭看護のしかた・応急手当て・カイ蟲の

駆除

医療施設と保健所

医療にたずさわる人々

家庭生活と職業

職業しらべ

取り引き関係書類の書き方

謄写印刷をおぼえよう

包装のしかた

珠算の練習（基礎計算・特殊計算法）

商業に働く人々

運輸通信業に働く人々

機械製造業に働く人々

公務員と歌員

附表（栄養成分表）

三年（生活の設計）

生活の設計

家庭経済・家計のたて方・家計簿記・将来

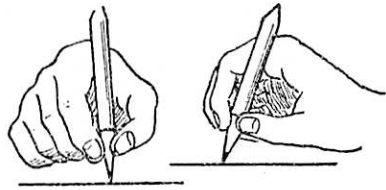
の備え

金融業に働く人たち

簿記

行事と食生活

祝い食の献立と調理（以下六頁）



アンケート

(到着順)

1. 御校ではトライアウトとしてどんなことをしていただけますか。
2. 職業・家庭科は於ける悩みは??

以上のような質問の回答を特定の方にお願ひしました処、つぎのように御回答下さいました。御回答下さいました方々に深甚の敬意と謝意を表します。

ハガキのため言葉は簡単ですが、実践の力がにじみ出ていて、これから実施しようとなさる方に、多くの示唆を与えると信じます。委しくは筆者へ御照会下さればよいと存じます。

東京都目黒区目黒第六中学

渡 辺 登

一、二類 1. 木工(工作器具の取り扱い方)

2. 電気スタンド製作(電気器具の

取扱い方) 3. 製図

三類 1. 通信文の書き方

3. 諸帳簿のつけ方 3. 珠算

二、特別教室が作れない。(男女の性別によるコースを設定しているので、教室の移動と準備に不用の時間がかかる)

千葉縣船橋市船橋中学

長 島 徳 兵 衛

一、トライアウトの種目として、一年男女全員に——草花の栽培・謄写印刷・珠算・製

図・木工・手藝・電工(各コース共三十時間程度で実施)

二年男子には——草花栽培・簿記・珠算・木工・機工

二年女子には——簿記・珠算・木工・調理・手

藝・ミシン・和裁(各コース共四十時間)

三年男子には——農業コース(草花・農産

加工・飼育) 商業コース(簿記・珠算・子

供銀行) 工業コース(木工・機工・電工)

三年女子には——商業コース(男子に同じ)

家庭コース(洋裁・和裁・調理・食品加工

・手藝・応接)(以上各コース五十時間)

今後はなるべく多くのトライアウトコースを設定して、啓発的経験を与えたい。

二、悩みとなる点は——A施設設備が不足、

B指導者の適格(養成を含む) C他の教師

の認識不足、D地域社会の啓蒙不足、E父

兄の協力不十分等

三原市広島大学教育学部附中

加 藤 良 明

一、トライアウト(男子)

一年

商家の仕事(一学期)——応接・販売・各種

計算・通信文・各種書類・統計・広告図案

家庭の食事(二学期)——野菜の栽培・副食

と主食・食品加工・間食

家庭への協力(三学期)——木工・竹工・金

板工・屋内害虫の駆除

二年

帳簿の手傳—小遺帳・家計簿・各種計算・
經營記帳

健康生活—寄生虫駆除・家庭看護・応急処置
家の設計—測量・建築設計・室内裝飾照明

三年

文化生活—印刷・速記・応接

機械と生活—家庭器具の構造・機械の操作

・ミシン・旋盤

協力的な家庭生活・洗たく・しみぬき・被

服修理・染色・生産管理

○理解(知識)・女子コースについては省略

二、問題—施設・時間・教師(指導者)・地
域社会の本教科への理解・他教科担任の理
解・参考資料

これらについては、研究発表しましたが、
紙面の都合上割愛、後の機会にゆづります。

山形県東田川郡渡前中学

松田 金三郎

一、本校職業の家庭科のトリアウト

農村向男子コース(主なるもの、本校で実
習可能なもののみ)

第一学年—園藝(花、庭木、鉢植) 農耕(大
根、休菜、茄、南瓜、玉菜) 手技工作(か
きねむすび、ほうちようかけ) 製図(庭園

設計、兎箱) 操作(農器具—鋏、鎌、背負

はしご、噴霧器—ミシン、自転車手入れ)

生産管理(作付計画、飼育計画、栽培飼育

日誌) 応接(応待給仕) 計算(珠算)

第二学年—園藝(野菜、庄内柿、ぶどう、

梨) 農耕(麦、いも、豆、稻) 家事(にわ

とり、兎、綿羊、豚) 手技工作(農具修理)

操作(除草機、脱穀機、撒粉機、土性検査

機) 分観修理(農業機械一般) 計算(珠算)

第三学年—食品加工(ビン罐詰、畜産加工)

農耕(稻、輪作) 手技工作(照明器具組立)

分解修理(日常器具) 操作(電気機械、ホ

ームシューマー、圧搾機) 書類作成(取引関

係書類) 記帖(農業簿記) 經營管理(時間

分配、努力分配、応接) 計算(珠算) 設計

(各種図案) 傳崇

二、職業・家庭科の悩み

生徒が使用する良い教科書(実習を含む)

がないこと。

千葉県安房郡勝山中学校

峰 隆 信

一、トリアウトについて

一年生：教科書「職業」の実習に準じて実施

二年生：(男)製図、農耕、計算記帳、漁、

文書事務、機械工作

(女)手技、応接、調理、食品加工

三年生：(男)農耕、機械操作、製図、畜産加

工：農業コース、製図、漁、食

品加工、文書事務、計算記帳：

水産コース

(女)和裁、洋裁、調理、保育、衛

生、食品加工

二、悩みとなる点・

(1)基礎技術の分析、(2)評価の方法、(3)ホー

ムルームと職業指導との結びつき、(4)漁の

加工設備、(5)他教科との関連、(6)職業科と

家庭科との結びつきに付て概念的には理解

できるも、所謂旧来の家庭科となつてしま

うこと、(7)第二類の担当教員の不足、(8)校

内のセクシヨナリズム。

東京都西多摩郡西多摩中学

大山 健

一、文部省通牒の仕事の表の大項目でいえば

男女とも「漁」以外は全部やつています。

二、中学校教員の定員が少ないことです。本

校は職業家庭科の教員は豊富なので、充分

な授業が出来ますが、その代り他の教科が

手不足で困ります。現在の定員で、各教科

の授業及び特別教育活動を充分に行うこと

は不可能です。

参考資料

中学校職業・家庭科

学習指導要領（大綱と抜萃）

文部省では、目下学習指導要領決定のため急いでいるが、まだ未定稿の域を脱しない。しかしその大綱はつぎの通りである。また教育計画の基準は、ここに抜萃した通りでこれは先に発表されたもので、殆んど変更はないものと思われる。

まえがき

第一章 職業・家庭科の指導目標

第一節 性格 第二節 目標

第二章 職業・家庭科の教育内容

第一節 仕事

第二節 仕事に含まれる技能および技術に 関する知識理観

第三節 家庭生活・職業生活についての社 会的・経済的な知識理観

第三章 教育計画の基準

第四章 教育計画の例

第一節 農村男子向課程の例

第一 この学校の環境

第二 単元の一覧表

第三 第七学年の学習指導

A、第七学年の学習指導

B、単元の主眼

C、単元の構成

D、選択の時間の運営

E、選択の時間の単元

第四 第八学年の学習指導

A、B、C、D、E前項に同じ

第五 第九学年の学習指導

A、B、C、D、E前項に同じ

第六 単元の展開

第二節 都市工業地域男子向課程の例

第一より第六まで前項に同じ

第三節 都市商業地域男子向課程の例

第一より第六まで前項に同じ

第四節 漁村男子向課程の例

第一より第六まで前項に同じ

第五節 農村女子向課程の例

第一より第六まで前項に同じ

第六節 商業地域女子向課程の例

第一より第六まで前項に同じ

教育計画の基準

（昭和二四・十二・九文部省通牒）

第三、第8学生について

第一、全体について

(1) 各生徒が十二項目の仕事の技能および技術に関する知識・理解を学ぶと同時に、家庭生活・職業生活についての社会的・経済的な知識・理解を養うように計画すること。

(2) 十二項目の仕事は、社会の必要、学材生活の実状に応じて適当なものを選択し、各項目を組合せ、知識・理解と充分に関連を保つて指導するように計画すること。

第二、第7学年について

(1) 各生徒が次の四類・六項目以上にわたつて学ぶように計画する。

第一類 栽培・飼育・漁・食品加工

第二類 手技工作・機械操作・製図

第三類 文書事務・経営記帳・計算

第四類 調理・衛生保育

(2) 各級の学習時間は、それぞれ二〇―六〇時間とすること。

(3) 家庭生活・職業生活についての社会的・経済的な知識・理解を深めるように指導すること。

(4) 各学材では男子向・女子向の課程を設けることができる。

(1)各生徒が二類以上、四項目以上にわたつて学ぶように計画する。

(2)家庭生活・職業生活についての社会的・経済的な知識理解を総時間の四分の一程度学ぶようにすること。

(3)各学校では二つ以上の課程を設け、生徒にその一つを選択学習させること。

第四、第9学年について

(1)各生徒が二分類以上、四項目以上にわたつて学ぶよう計画すること。但し三つ以上の課程を設ける学材においては、その一つは一分類または二分類にわたつて、三項目の課程とすることができる。

(2)家庭生活・職業生活についての社会的・経済的な知識理解を総時数のうち四分の一程度学ぶようにすること。

(3)各学材では、二つ以上の課程を設け、生徒にその一つを選択学習させること。

第五、選択の時間の取扱について

選択の時間は地域社会の要求、学材の状況、生徒の希望、他教科との関係などを、あわせ考えて、必修の時間の内容の発展的なものと、必修時間で指導しないものの中から適当であると思われるものをえらび、課程を構成して学習せざる。

「光書房の職業家庭」

推薦のことば

参議院議員 河崎なつ

私は、現在参議院議員、厚生委員として、年末の関心事である母と子の問題、家庭と人口問題について、その改善に政治的な努力をいたしておりますが、元々長年の間教育にたずさわつてきたものとして、女子教育については、常に念頭を離れたことがありません。

現在の政治的な活動もその延長に外ならないのです。その立場から考えて、女子に職業的な教育を施すことは、絶対必要と考えているものです。

今回職業家庭科という教科が、中学校で重視されて来ましたが、勿論大いに賛意を表するものではありませんが、同時にその本質についての教師の理解が一層必要であると思うものです。従来の家庭科は、女子を家庭人としてのみ考えて、職業人としての考え方が稀薄ではなかつたか、女子の経済的な自立なくして女子は古い封建性から抜け切ることができず、また母としての立派な役目を全うすることもできないのです。

家庭のしごとは、女子にとつて大切なことです。しかしそれと同時に、みづちり職業に対する教育がなされなくてはなりません。その意味で、今度光書房から刊行されることになつた昭和二十七年検定教科書の内容を見て私の年末の主張と一致する点が多く、恐らく他の同種の教科書に見られない広さと深さを持つて思いました。この教科書が各校で採用されたならば、生徒たちにとつてこの上もない幸わせと思ひましたのでここに広く推薦する次第です。

質 問 欄

(問) 職業・家庭科をよくやつている学校を参観したいのですが、どこの学校がよいか教えて下さい。(山梨県のある中学校教師)

(答) 学校の参観も悪くありませんが、職業・家庭科は他の学科と異り、地方の実状から生れて来るべきもので、有名学校をモデルになどという従来教育経営では、うまく行かないでしょう。それよりも見るならば、工場や職場に直接ぶつかつて、そこから教育のヒントを掴むべきでしょう。職場には、技術あり、少しツツこんで見れば、社会的経済的知識が山積しています。教師は挙つて現場を見また生徒にも見せるべきでしょう。教育的な熱心さを持つてば、多くの工場や職場では最初はしぶつていても、必ず承認してくれると思います。そこから得たものこそ、二番せんじの有名学校にまさること何倍か知れません。

(問) 農村における職業・家庭科の単元の立て方はどうしたらよいか。

(秋田県の一女教師より)

(答) 文部省が示している基準は、本誌の参考資料に入れておきました。いくつものコースは作れるようになっていきます。校長さんを始め、学校内の全教師によつて討議され、その協力にまつ必要があります。またPTAをも説得して、この教育の中学における重要性

を認識させねばなりません。その前に、基礎調査として、地域の産業、職業の分布、最近の就職状況を調べるべきで、農村だから農業といった頭や机上でのプランは意義がないと存じます。勿論現実にのみ追従してはいけません。

実 習 評 價 の 基 準

(アメリカ労働省の職業分析より)

- 一、長期にわたつて速く仕事ができる。
 - 二、手、腕、脊、脚の強さ。
 - 三、手——絞り、曲げ、引つ張り、はさみ、握る等の場合に含まれる仕事。
 - 四、腕——持ち上げ、押し、運び、投げる等の場合に含まれる仕事。
 - 五、脊——物を床から持ちあげる、脊と肩でおす場合に含まれる仕事。
 - 六、脚——ひざの作用で物を持ち上げる、圧力のあるペダル操作などの場合に含まれる。
 - 七、指、手、足の器用さ、——速く正確に動かす能力。
 - 八、眼と手の協応——眼で見たところによつて、手の運動を正確に統制する能力。
 - 九、足と手との眼協応、独立の運動をする両手の協応。
 - 十、物の大きさの目測数量の目測、動く速さ
- 一、物の形の知覚。色の弁別。
 - 二、視覚、聴覚の鋭敏さ。
 - 三、嗅覚、味覚——強さや性質によつて類似差異を弁別し、再認する能力。
 - 四、触覚の弁別——物の滑らかさや形を指などで弁別する能力。
 - 五、筋肉感覚の弁別——持ち上げて重量を滑つたりするように筋肉感覚に基いて判断する能力。
 - 六、口答命令、文書命令の記憶。
 - 七、計算の能力。
 - 八、計画の能力、決断する能力。
 - 九、順応性、積極性。
 - 十、言葉表現、文書表現の能力。
 - 十一、騒音の中で注意を集中する能力。
 - 十二、情意の安全性。

職業教育研究會 の活動

▽昭和二十四年二月結成以來、毎週土曜日研

究會を開催し、職業科文庫の編集に當つて
来た。併しこれは九冊を刊行しただけで、

出版社の都合で中絶したが、その成果は、
つぎの教科書編集に大きな役割を果した。

▽昭和二十四年十二月、文部省の四類十二項
目のトライアウト案は、すでに本研究会で

研究をつづけていたことで、すでにその年
の五月には、職業文庫の別冊として「図解
職業科実習書」上下二冊を刊行している。

従つて直ちにその問題を取上げ、教育會館
で職業・家庭科公開研究会を開催、多教參
加者があつて盛會であつた。

▽こゝて昭和二十五年に入り、會員杉山一人
氏を中心とする「職業・家庭科指導の實際」
を刊行(第一出版株式会社)恐らく最初の參
考書で、版を重ねること三回に及んでいる。

▽昭和二十五年九月、文部省の職業・家庭科
教科書の檢定基準が出され、直ちに昭和二
十七年度用の新教科書の編集に着手した。
これは、別掲廣告にもあるように、都市・

農村・家庭の三種別各学年別九冊、しかも
各冊A版二百四十頁という、ボウ大なもの
で、文部省の示したトライアウト四類十二
項目を盛りこむのだから、大変な仕事であ
つた。

▽従來の會員のみでは人手不足で、かつ編集
のエキスパートを必要とするので、他の人
にも依頼し、アルバイトなども入れて編集
を進行した。原稿の依頼も延百数十名に及
んだが、その殆んどを教科書用としてコン
デンスするには、非常な努力を要した。

▽実をいうと、職業・家庭科に対する方針、
ことにトライアウトを如何に指導すべきか
という点に至つては、文部省でも確たる見
解が立つていないようだし、原稿執筆者に
もよくわからない。實際家もとまどいの形
である。この混乱の中での新教科書の編集
は、全く生みの悩みであつた。

▽幸にわれわれは、過去二カ年に亘つて、今
日あるを見透して研究を続けて來ていたの
で、その点では、他の編集陣と比べて絶対
にヒケをとらない自信があつた。併し教育
實際の現状を考え、あまり進んだ考え方は
は囚るだろうと、その調節に苦心をした。
原稿は殆んど書直されたのである。

▽かくて編集は、丸七カ月を要したのである
が、幸にも九冊全部が檢定をパスしたので
あつた。われわれは、この教科書によつて
職業・家庭科的確な方向と、將來あるべ
き姿を、ある程度盛ることが出来たと自負
している。内容が広汎で、専門的知識や設
備を要するので、学校でその全部を学習す
ることは元より不可能であり、順序配列も
この通りには出来ない。季節的にもくい違
つている。この中から適當なものを選んで
学習することになる。

▽以上の外、職業掛図・ワークブックの編集
平凡社「職業科事典」第二卷―第四卷、毎
日中学生新聞の「すぐ役にたつ技術」、近く
刊行される牧書店の「職業・家庭科の指導
細案」など、本研究会並に會員による活動
は広範囲にわたつて続けられている。
▽また近く優秀な教育實際家に調査研究費を
支出する計画も立てている。心ある方々の
積極參加を要望する。

昭和二十六年六月十日発行(價二〇円)

編集兼発行者 池田 種生

東京都千代田区一ツ橋・教育會館
發行所 職業教育研究會

振替東京七七一七六

先生にお願い 長科家庭科 職業家 中 学 校 全 国

現在全國各學校で御採用を得て御使用中の「光書房版・職業教科書」(一年・將來の希望、二年・自己をみつめて、三年・進路の決定)は、一昨年職業教科書のトップをきつて文部省検定をパスしたものであります。

職業教育研究会による來年度の職業、家庭科教科書も、その編集陣が中心となり参議院議員河崎なつ、東京農業大学助教授平林 忠、東京工業大学講師關英男東京大学助教授宮原誠一、の諸氏監修のもとに立派に出來上りました。

目下御使用の光書房版では、すでに今日あるを予想して、多少のトライアウトが取上げられています。二十七年度においては、より深い研究に基づき構想を新たにして編集し、断然他の同種教科書を抜く内容の新鮮さと広さを持つてゐることを自負しています。

私どもは、教科書が公共的出版であることを自覚し、殊に「職業教科書の光書房」として出発いたしましたので、同科教育目的の向上進展に役立つことのみを念願しいるものであります。

幸い全國中学校長、職業家庭科担任の諸先生方が、私どもの微衷を御賢察のうえ來る七月の展示会に出される「光書房版」を挙つて御採用下さるならば更に御期待に添うよう一層の努力研鑽を重ねたいと存じます。

なお、光書房版は、内容が最も豊富であるばかりでなく、挿画、装幀にも細心の注意を払つておりますから、展示会で一見されますれば、すぐおわかりになります。何分ともよろしくお願い申し上げます。

東京都中央区木挽町5ノ5

株式会社 光 書 房

技術教育 復刻版全15巻

第1巻 職業と教育

発行日 1988年10月1日発行
編集協力 民衆社
編集 産業教育研究連盟
発行・ 教育企画出版株式会社
発売元 〒160 東京都新宿区高田馬場1-28-7
ヒルサイドパレス410 ☎03(207)0563

印刷／(株)オートプレス 製本／岩佐製本

※本復刻は、清原道寿先生所蔵の原本を書き込みもそのまま底本として使用し、リプリントしました。

